

涌谷町

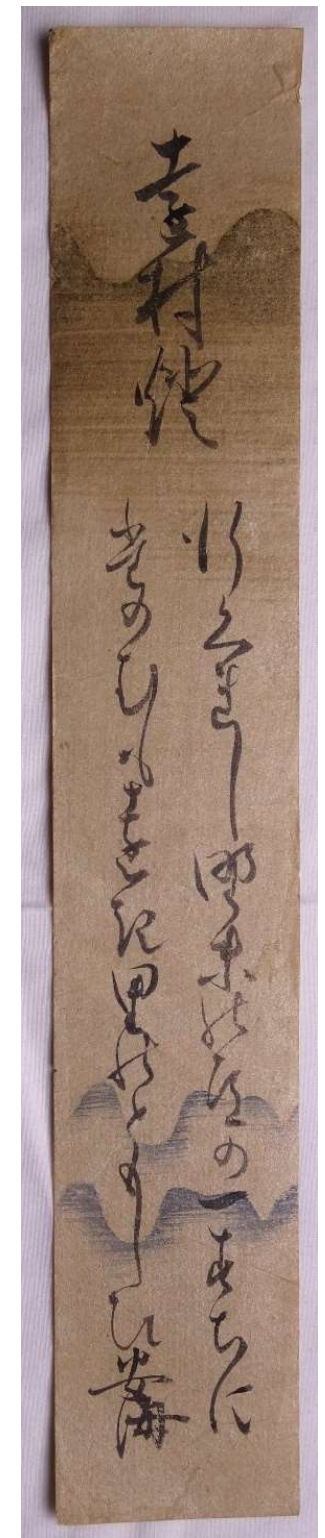
黄金山神社 拝殿



こがねやま えんちょう えんぎしきじんみょうちょう
黄金山神社は、延長5年(927)にまとめられた延喜式神名帳に記
載のある延喜式内社です。てんぴょう むつのくにおだぐん
天平21年(749)に陸奥国小田郡(涌谷町を
中心とする地域)で起きた日本初の産金の時、功労者として記録された
人々の中に「^{きん いで}金を出さる山^{やま}の神主・^{かんぬし}日下部^{くさか}深淵^{べふかふち}」があり、^{まつ}祀る神社は
現在の黄金山神社の前身であったと推測されます。

さんきん
産金以後、この地は人々の記憶から忘れ去られていきましたが、黄
金山神社が人知れず伝えてきました。江戸時代には^{きんかさん}金華山が産金地で
あるとの説が広まる中、^{いせのくにしらこ}伊勢国白子(現在の三重県鈴鹿市)の^{こくがくしゃ}国学者で
^{そめかたかみ}染型紙を^{あきな}商っていた^{おきやすみ}沖安海がこの地を訪れ、産金地は涌谷であることを
唱えました。安海は地域の人々に後世に伝えていくべきと、呼びか
けて、天保8年(1838)に神社の^{はいでん}拝殿を再興し
ました。

現在も、安海の声で建てられた社殿では、9月にお祭りが開かれるなど、地域の拠り所として信仰を集めています。



◀ 涌谷に伝わる沖安海が詠んだ和歌